

子どもの国づくりだより

vol.6 平成27年3月発行

「子どもの国づくり推進協定」を通じ脱少子化県民運動に参加している皆さまの取り組み等を紹介します。



平成26年度第2回ベビーウェーブ・アクションが開催されました。

平成26年10月17日に開催された第2回ベビーウェーブ・アクションでは、会長表彰の表彰式が行われました。

この表彰は、少子化克服のモデルとなるような取り組みを行っている企業・団体等を表彰するものです。

今年度は、「若者の定着支援」や「出会いと結婚の促進」、「出産と子育ての環境整備」に取り組む23の企業や団体等が表彰されました。



平成26年度ベビーウェーブ・アクション会長表彰 受賞企業・団体等

- | | | |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| ○ (株)布袋屋薬局 | ○ (社福)桜丘会 | ○ (株)中安自動車 |
| ○ (株)巽工業所 | ○ レコーズ | ○ ロード電子工業(株)秋田工場 |
| ○ (社福)鷹巣地の塩会 | ○ (社福)仁賀保保育会 | ○ (株)菅与 |
| ○ 五城目森林組合 | ○ (株)宮原組 | ○ (株)吉田建設 |
| ○ 山ニシステムサービス(株) | ○ 仙北西森林組合 | ○ (株)最上田組 |
| ○ (株)ジロー洋菓子店 | ○ (社福)法人あけぼの会 | ○ JA 秋田厚生連 平鹿総合病院 |
| ○ 伊藤工業(株) | ○ 結婚サポーター 佐藤あや子さん | ○ (社福)なごみ会 |
| ○ 秋田県信用組合 | ○ (社福)こまくさ苑 | |

会長表彰を受賞した株式会社最上田組の藤原さんからは、子育てしやすい職場環境づくりを進めるためのきっかけとして、従業員の子どもを職場に招く「子どもお仕事参観日」の実践例を発表していただきました。



「ベビーウェーブ・アクション」行動宣言に基づき、脱少子化に向けた取り組みを実践している会員を代表して、国際教養大学学生会の横井さんと西野さん、秋田公立美術大学学生会の野呂さんと泉さんに、子育てイベントでのブース出展について紹介していただきました。



ベビーウェーブ・アクションとは・・・

行政、経済界、マスコミや子育て支援団体などの65団体で構成され、それぞれの立場から少子化克服のための活動に取り組んでいます。また、「あきたの脱少子化県民運動」の通称でもあります。

ベビーウェーブ・アクション会員から

国際教養大学学生会

大学生が自分の将来の家族像を描くことは難しいものです。結婚は就職してからという風に考えている人が多いため、自然と、結婚や出産についてしっかりと考えることが少ないように思います。国際教養大学での大学祭(AIU祭)で私たち学生会は、将来設計について考える機会を学生に提供し、今までの活動報告を地域の方々等に行いました。スチロールグライダーを用いて子どもたちと触れ合い、子どもと遊ぶ楽しさを学生に体験してもらいました。



活動を紹介するコーナーを設置

また、学外の方へも写真やイラストを用いて、ベビーウェーブ・アクション会員として参加した子育て応援イベント「すこやかあきた 2014」の活動報告を行いました。私たちは、このイベントに参加し、家族連れや小さな子どもたちと交流することで、自分の中で将来の家族像について、現実味を帯びて考えるようになってきたと思います。少子高齢化が進む中、将来を担う私たちが考えるべき問題を身近に捉えることのできる一連の活動は意義深く、これからも大学生としてできることを続けていきたいと考えています。

子ども・子育て支援推進秋田周辺地区協議会

当協議会では、今年度、管内地域の子育てに関する実態と課題について、行政・民間・企業・住民などが垣根を越えて意見交換することを目的に、東京都出身で五城目町に移住した起業家丑田俊輔さん、香澄さん夫妻を招き、「つながる力 地域で子育て」と題して、講演とワークショップを開催しました。

参加者からは、「視点を変えるだけでマイナス要因と捉えていたものでもプラスにできることが分かった」とか、「頭で考えるよりとにかく楽しむ、行動することが大事だと思った」といった声が聞かれるなど、全員から高評価を得ることができた会でした。

今後は、これら地域の実態と課題を地域全体で共有することを目標に、今まで以上に情報発信や問題提起をしていかなければならないと肝に銘じた一日でもありました。



こんにちは!あきた結婚支援センターです(第6回)

センターからの耳寄りな話 ~メールマガジンについて~

あきた結婚支援センターでは、会員登録制のマッチングのほか、出会いイベントの情報をメルマガにより無料配信しています。

出会いの場を提供する「すこやかあきた出会い応援隊」が全県各地域で年間約 200 回のイベントを企画・開催しております。イベントの内容もさまざま、飲食店やホテルでの出会いイベントのほか、コミュニケーション講座を組み合わせたもの、スポーツ応援ツアー、料理教室、トレッキング、など、工夫を凝らした企画となっております。

これまでに 20,000 人を超える方が参加され、ここで生まれたカップルから多くの成婚報告をいただいております。

現在、3,000 人以上の方がメルマガに登録してイベントに参加されていますので、是非ご利用ください。



● 子どもの国づくり推進協定締結団体から ●

子どもの笑顔は地域の宝！

ファンド
助成団体

社会福祉法人
いなか福祉会

いなか福祉会が発足して、平成26年10月で満10周年を迎えました。これまで保育事業に従事しながら地域の子育て支援にも力を入れてきました。今年度は昨年度に引き続き、少子化対策応援ファンド助成事業を利用した「地域子育てセミナー」を開催しました。体操のお兄さんでおなじみの佐藤弘道さんをお招きしての親子体操教室は参加者から大変好評をいただき、充実した時間となりました。平成27年度も子育て中の皆様に喜ばれる内容のセミナー開催を現在模索中です。



高齢化に加え、少子化が進む昨今ですが、地域の宝である子どもたちを「住民みんなで育てる」という昔ながらの意識がこの地域には根付いており、本当に素晴らしいと感じます。法人としても地域の子育てのお手伝いを今後も頑張りたいと思います。

Well-being Akita

～秋田で夢を叶えましょう～

日本赤十字秋田短期大学

地域少子化対策強化交付金を活用した補助事業として、卒業後、県内に就職し、秋田での仕事と結婚、その後の家族との生活や子育て等、学生が自分の将来をイメージできるようにするためのシンポジウムを開催しました。

県内の介護福祉士養成校から学生約130名が参加し、先輩介護福祉職従事者らの講話や秋田県の少子化の現状の説明を通じて、仕事と家庭の両立に理解を深めました。学生からは「将来の働き方を具体的に考える良いきっかけになった」との感想がありました。



今後も学生が秋田での将来のライフスタイルをイメージできるキャリア支援に取り組みながら、秋田県の介護福祉領域の人材の育成と充足を図っていききたいと思います。

子どもお仕事参観日

ファンド
助成団体

社会福祉法人 玉米福祉会
みどり保育園

保育園で保育士の仕事をしているママの姿がお家にいる時のママと違って見え、当日参加した2名の小学生はちょっと驚いたようです。園の子どもたちに優しく接し、子どもたちから慕われるママを見たり、食事や遊びのお世話の大変なことを体験し「保育士のママはすごいな」とますます大好きになったとか。ママも日頃見られない我が子の成長を発見できた有意義な一日だったと語っていました。

当園はこれから子育てに入るであろう若い職員も多いので、とても素敵な企画の「子どもお仕事参観日」を今後も続けていきたいと思ひます。また、ママが仕事と子育てを両立していけるような規則への取り組みや、何よりも職員間の輪を大切にし、お互いが気兼ねなく休暇を取り助け合える、笑顔いっぱいの職場であり続けたいと思っています。



秋田県社会保険労務士会から（第6回）

～ お父さんも家事と育児 ～

OECD加盟国の中で、日本は結婚や出産を機に仕事を辞めていく女性たちが多く、仕事と家庭の両立が難しい環境がまだ多くあるのが現状です。育児は母親がするものという考えが依然として多く存在するように感じます。

海外に目を向けると、男子トイレにもオムツ交換台があるのが当たり前の国があります。それだけ父親が育児をするのが普通のことになっているのでしょう。最近では日本でも増えてきてはいますが、こういった取り組みから社会全体の意識を変えていけたら良いですね。

日本の女性が出産を機に仕事を続けるのが困難となる理由の1つに、海外に比べて男性が家事や育児に関わらない、もしくは関われないという事情がありそうです。夫が育児等にかかる時間は1日平均1時間程度と、欧米諸国の3分の1程度です。

育児世代の男性が、積極的に育児するようになるためには、長時間労働にならないよう働き方を見直したり、休暇を取りやすくする等、職場の理解も欠かせません。

子育て世代の女性従業員だけでなく、男性従業員にも配慮できる企業が増えたらいいですね。

（参考：内閣府「夫の協力」）

（社会保険労務士 船木 彰）

県からのお知らせ

● 少子化対策応援ファンド助成事業について ●

4月から募集を開始します。詳細は、少子化対策局(※)へお問い合わせください。

【次の親世代等支援コース】

秋田県の少子化対策として効果が期待できるさまざまな取り組みに対して助成します。

○対象者

少子化対策に資する取り組みを行う民間団体及び企業

○助成額

上限30万円(一定の要件を満たす取り組みについては100万円)

○対象となる取り組み

- ・独身男女の出会い・結婚支援に関する取り組み
- ・子ども・子育て支援に関する取り組み など

【仕事と育児・家庭の両立支援コース】

子育てしながら働きやすい職場づくりのため、自社の実情に応じた新たな取り組みに助成します。

○対象者

一般事業主行動計画を策定済、または策定しようとする県内に本社がある従業員数100人以下の企業

○助成額

20万円

○対象となる取り組みの例

「子の看護休暇」の有給化や、時間単位・半日単位での取得を可能とするなど、法を上回る休暇制度の導入等

● 「子どもお仕事参観日」の実施企業を募集しています! ●

「子どもお仕事参観日」とは、保護者が普段どんな職場で働いているかを子どもたちが見学する取り組みのこと。子どもと職場の方々が交流することで、それぞれに大事な家族があるということ、社内全体で再認識できる特別な1日です。仕事と子育ての両立支援につながる「子どもお仕事参観日」を実施していませんか?

開催した企業の様子をベビーウェーブ・アクションのウェブサイトで紹介しています! → →



● 行動宣言を实践しましょう ●

「ベビーウェーブ・アクション」行動宣言の冊子を配布しているほか、ウェブサイトでもご覧いただけます。行動宣言に加え、取り組みの具体例も掲載していますので、少子化克服のために、ともに行動宣言を实践していきましょう!



● 子どもの国づくり推進協定 ●

◆協定締結数

3,617件

(平成27年2月末現在)



脱少子化の行動の輪を一緒に広げて行きましょう!

◇ 「子どもの国づくりだより」に関するご意見、ご感想などを事務局までお寄せください。

◇ 皆さまの取り組みなどを事務局までお知らせください。

<発行> ベビーウェーブ・アクション事務局 (秋田県企画振興部少子化対策局(※))

TEL 018-860-1248 FAX 018-860-3871 E-mail shoushika@pref.akita.lg.jp

※平成27年4月1日からは人口問題対策課となります。(E-mail jinkou@pref.akita.lg.jp 電話、FAXは変わりません)

秋田県少子化対策総合ウェブサイト ベビーウェーブ・アクション

ベビーウェーブ

検索